

建築あるなら やっぱり春!



場所 固有の時間というものがあ

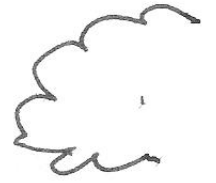
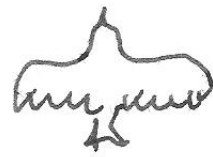
時間・空間ユニットを感じるこ



木林に行くといい。水のつぶ粒 土の匂い 青と緑の

透明な明るみ 手を振るようなミダ!

流れる 流れる。鳥もいる。



のように、建物でもこの種の時間空間ユニットがある。

吉田家とかね、原生林とみまごう中庭をそれぞれの

棟が持ち、100年乾燥を保っている大型木造住居。

人は180人ほど住んでいる。毎年50人近くが入れ替る。

4年間住ましてもらいました。

初めて寝る時、100年もの天井だかと思っ

て目をつぶり、

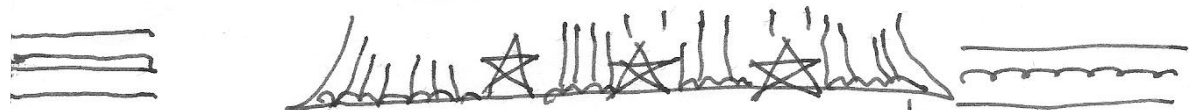
次の日起きたら一瞬どこかわかんなくて、

でもいい天井で、あ、今日から毎日ここに帰ってくるのか

と思いドキドキしたことを思い出します。

初めての春はえらく長かった。気前がいい程に。

多くの定生・定外生が京都に連れ出してくれ、これは吉田家のある京都だった。



定食屋の人は誰でも吉田京を知っており、色々な風には話を
かけてきてくれたね。自分の住んでいる所が色々な話を
連れてきてくれた。みるみる見方がかわってきた。

恋! した。あ! なに不思議 舞台にも立ち、たり造^{ちやう}ち^{やう}
た^い。

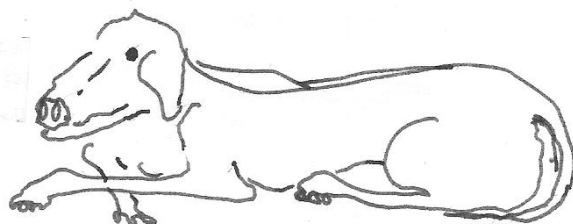
雪がふたふと、黒の夜の百五遍をカチカチの白色にして
いいもへだった。人が居れば人が集まる。? でしょ。でも
居ると人が集まる、何かいつも始まるから居たんだね。どこに?

百五遍にテラスのようなのつらつら 櫓、と呼んでたけど。

それが石垣*カネになる。空気がふるふる!、てふるえて
場所が出来ちゃう夜。さきまで食堂で話したことが、このま
夜なのに作業して一日でできちゃう。びっくりだったね。

でも そんな感じは今もそう。なんかあの辺で出来るかな。
みたいなことを話せる相手がいるから、そう思っているのは
私だけじゃないはず。

京都に来ると 暇みつけたら、一緒に散歩行きます。



黒森魚



!!! 所あるお!